

| 評価実施年度           | 令和 3 年度  | 学校名   | 大分県立 大分商業 高等学校   |   |
|------------------|--|---|--|---|
| 学校教育目標           | 生涯にわたり学び続ける力を育み、未来を切り拓く生徒の育成   |   |  |   |
| 重点事項             | 評価項目   | 評価の観点   | 評価   | 今後の改善方法(学校作成)   |
| カリキュラム・マネジメントの確立 | 教科等横断的な視点  | <p>○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。</p> <p>○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。</p>   | <p>・極めてよい。</p> <p>・学校教育目標達成のための適切な重点目標が設定され教育活動が行われている。この目標を達成するために、校長のリーダーシップのもと、学校経営ビジョンの教職員への共有が確実に図られることが重要であり、そのためのコミュニケーションを充実させる必要がある。各目標の進捗状況から、教職員への情報共有が十分に機能していると評価できる。</p>   | <p>・商業の専門教科は当然のこと、普通教科との連携を図り教科横断的な総合的な学ぶ力の育成に努めたい。</p> <p>・資格取得等数値目標化しやすい分野だけでなく、社会に出て即戦力として期待される基礎学力や応用力の養成も喫緊の課題である。</p> <p>・教職員はもとより、全生徒に対しても教育目標をことあるごとに意識づけさせることも重要である。</p>   |
|                  | P D C A サイクル   | <p>○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。</p> <p>○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。</p>   | <p>・よい。</p> <p>・PDCAサイクルが機能する中で検証・改善が進められている。第1回訪問でのコメントを踏まえて、各分掌で改善策が検討され、今後の改善方針を明示していることは評価できる。</p> <p>・実態認識がやや不十分な分掌も見受けられたので、それぞれの教育活動において生徒の現状把握を踏まえる必要があることも指摘したい。</p>  | <p>・各分掌主任の意識にやや強弱があるため、学校課題に取り組む姿勢に一貫性を持たせる必要がある。そのためには、全分掌を統括する主幹教諭の役職を活用していきたい。</p> <p>・今後は管理職を除く、主幹教諭主催の学校運営状況確認のための会議や討論の場を設定し、ミドルリーダーにあまねく学校参画意識の涵養を求めている。</p>   |
|                  | 社会との連携・接続  | <p>○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。</li> <li>・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。</li> <li>・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。</li> </ul>  | <p>・よい。</p> <p>・部活動や商業科の学習効果など本校の魅力を伝える上でのコンテンツが充実していることがうかがえた。その活躍レベルは、広く地域社会に認識されており、HP以外でも広報紙の配布やSNS活用などの方法で積極的に情報発信することを期待したい。</p> <p>・新聞記事になる活躍だけでなく、日常的に生徒達が楽しく学校生活を送っている様子を伝えることも、学校の魅力を発信することにつながると思う。</p>   | <p>・今年度は積極的に広報活動に努め、本校生徒の活躍や学習成果、教職員の教育成果を地域に広く発信することができた。</p> <p>・新聞やテレビだけでなく、HPの充実にも努めているが、学校行事の報告だけに留まっている感がある。写真の掲載を多くするなど、より親近感の持てる企画やコンセプトを考え、独創的で積極的な広報を心掛けていきたい。</p>  |
| 主体的・対話的で深い学びの実現  | 授業の活性化   | <p>○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体として P D C A サイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。</p> <p>○授業の活性化が図られているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。</li> <li>・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。</li> <li>・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。</li> </ul> <p>○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。</p> | <p>・よい。</p> <p>・指導教諭を中心に、互見授業などを通して「主体的な学び」の実現のための授業改善が組織的に進められている。</p> <p>・授業観察や生徒へのヒアリングでは一方的な授業がある現状も否めず課題としたい。生徒からは、「理解していないのに進んでしまう授業がある」や「理解できていない生徒に時間を要して先に進まない」という声もあがっていた。知識・理解の定着を図る授業において、こまめに生徒の理解の状況を把握しながら授業を進めるように改善をしてもらいたい。</p> <p>・各クラスの雰囲気は大変良く、生徒間及び先生との関係も良好に見受けられ生徒の評価の高い授業も認められるので、更なる授業の活性化が図られるよう期待する。</p> | <p>・指導教諭のリーダーシップのもと、学校組織全体で「授業改善」に取り組んでいる。年間2回実施している「授業研究会」では、第1回を普通教科、第2回を専門教科(商業)とに分け、全教職員で参観し、改善に向け議論を尽くしている。</p> <p>・県教委や教育センターの指導主事、他校の指導教諭等を招聘し、指導助言を頂く形態の授業研究のあり方は、本校が全県下の先駆けであり、今後もさらに内容の充実が求められる。</p> <p>・今後は、生徒全員配付となったiPadの活用領域を広げ、より効果的な授業活用が必要となる。</p> |
| 安全・安心な教育環境       | いじめ・不登校等の対策  | <p>○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。</p> <p>○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。</p>  | <p>・極めてよい。</p> <p>・不登校や教育相談に関わる事案については、学年、分掌に加え、SC等が連携し、ケース会議が開催されたり、管理職も関わる不登校対策委員会が開かれるなど組織的な対応がなされていることは評価できる。</p> <p>・コロナ禍が続き、生徒間のコミュニケーションレベルの低下が起因となる事象発生も懸念されるので、十分なるウォッチ、ケア等の継続は重要である。</p>   | <p>・学校全体で、組織的にいじめ・不登校問題に取り組んでいる。不登校気味の生徒に対しては初期段階で面接や家庭訪問を行い、家庭との連携や個々の生徒に寄り添うための取組を行っている。教育相談コーディネーターや養護教諭を中心としたケース会議を毎週、管理職も交えて実施できている。</p> <p>・今後は分掌と学年の境界を超えた教育相談会議を積極的に実施し、生徒の個に応じた組織としての対応を実践していきたい。</p>  |
|                  | 安全管理   | <p>○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</p> <p>○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。</p>   | <p>・よい。</p> <p>・第1回の訪問時に指摘した危険箇所については必要な設備を設置する等の対応が取れている。学校の立地が沿岸部にあり、津波のリスクが想定されるが、コロナ禍の影響で予定の避難訓練が実施されておらず、避難経路の確認のみに留まっている。生徒側が不安に思っている状況もあるので、適切な避難行動をシミュレーションするとともに、学年毎に実施するなど、感染対策に配慮しながら実際の行動を伴った訓練をする必要がある。</p>   | <p>・第1回の学校評価で指摘いただいた危険箇所については、市に働きかけ道路上のミラー設置や、古い急な階段の滑り止めの貼付など、具体的に改善できた。</p> <p>・コロナ感染防止のため、津波対策の避難訓練が図上訓練となり、体験型の実地訓練ができなかったことは反省すべきであり、次年度は工夫しながら必ず実施したい。</p>   |
| 信頼される学校づくり       | 働き方改革  | <p>○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。</li> <li>・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。</li> <li>・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。</li> </ul>  | <p>・時間外勤務状況の把握、心身の健康状態のチェックなど管理体制は整っており、校長のリーダーシップで、働き方改革についての声かけが行われており、教員にもその意識が浸透している。しかし原因を撲滅するための行動はこれからと思われる。</p> <p>・進路指導担当教員や強化部の担当者に超過勤務が偏っている等については、複数教員での業務分担などは是非、先進的なソリューションを県内で先駆けて示せる組織となってもらいたい。</p>   | <p>・業務改善や校務分掌の見直しなどを通して、働き方改革に対して真摯に向き合っていきたい。ノーマル残業が声掛けだけで、実態として形骸化していないか。また強化部活動顧問の自己犠牲と奉仕的精神に頼り切っていないか。全教職員で問い直していきたい。</p> <p>・月曜日の部活動休養日の設定など、今年度はよく守られていた。外部指導員の派遣なども含め、改善に向けて特に力を傾注したい。</p>   |
|                  | 学校課題の解決に向けた取組等   | <p>○商業専門校としての優位性を高める</p>  | <p>・地域社会や地場企業との連携協力をより深化させることなどにより、当校は商業専門校としての優位性をさらに高める可能性を持っている。その可能性を開花させるため、「社会力」とは何か、「地域貢献できる人材」とは何かという学校経営ビジョンに関わる対話を校長のリーダーシップのもと各分掌主任などのミドルリーダー同士で行い、実社会で役立つための教科指導(授業改善)を全教職員で取り組んでもらいたい。</p>  | <p>・県内唯一の商業専門校としての本校に対する期待と責任は大きいと感じている。コロナ感染のリスクがなければ、本来通り、インターンシップやジョブシャドウイングなど、地域社会や地場企業と触れ合う機会を多く設けることができたはずである。</p> <p>・次年度以降、これらの企画をさらにバージョンアップさせ、コロナ禍でも職場体験ができる環境を工夫を凝らしながら模索していきたい。</p>   |
| 総合評価             | <p>・校長先生のリーダーシップのもと、大分県商業教育の中心を担う商業専門校として、育成を目指す資質、能力を明確にした教育を実践している。「実践的教育の実施と地域貢献できる人材を育成する」という重点目標にそって、総合的な探究の時間などで大分の経済の課題を知り、その解決に向けた探究学習が設定されていることは高く評価できる。しかし、生徒ヒアリングでは、資格取得自体が目的化している様子がうかがえたので、大分商業高校でつけた力を生かして、どのような夢を実現したいかという展望を持てる探究活動や進路指導が実現されることを期待したいところである。今後は教員、生徒及び外部からの意見を十分にくみ上げ検討した上で、教育活動を実行していただき、実行後は適切に改善を行い、更なる深化につなげてもらいたい。</p> |   |  |   |
| 校長コメント(次年度の改善策)  | <p>・資格取得を目的化させるのではなく、その資格の活用意義を生徒に自覚させ、実践意欲に繋げていきたい。進学も就職も圧倒的に地元志向が強く、地域貢献度の高い学校であると言える。地域に愛され、地域に根付いた、地域になくはない学校としての本校のスクールポリシーを全教職員、全生徒と共有し、本校100年の歴史を振り返りつつ、更なる100年に向けての躍進を、時代の推移とともに模索していきたい。地域社会の情報収集と地域社会への発信、また地元大学や地元企業との連携を今まで以上に密にし、時代の推移の中で不易と流行をしっかりと見据えた学校運営に全精力を傾けていきたい。</p>   |   |  |   |